

藤嶺藤沢高校 だより 3月号

藤嶺学園藤沢高等学校 〒251-0001 藤沢市西富 1-7-1
Tel 0466-23-3150 <https://www.tohrei-fujisawa.ed.jp/>
(文責：高校教頭 香西義之)

2026年3月19日発行

【第78回高校卒業証書授与式】

3月1日、講堂兼体育館において卒業証書授与式が厳粛に挙行され、193名の卒業生が藤嶺台を巣立ちました。

本校の卒業式は、静寂と緊張感に包まれた中で執り行われる伝統ある式典です。今年度の卒業生も、その趣旨をよく理解し、一つ一つの所作に心を込めて臨み、落ち着きと品格を備えた、誠に立派な式となりました。その姿は、これまで温かく見守ってこられた保護者の皆様にとっても、感慨深いものであったことと存じます。

式辞において林校長は、3年間の歩みを振り返りながら、時宗の教えに触れ、「他者を思う心」の大切さについて語られました。

日々の学校生活の中で育まれてきた思いやりや感謝の心を大切に、今後の人生においてもそれらを礎として歩んでほしいとの願いが込められていました。

また、本校の教育活動の一環である茶道を通して培ってきた礼節や敬意に言及し、相手を尊重し心を尽くす姿勢の大切さが改めて示されました。こうした学びの積み重ねが、「BANIの時代」とも呼ばれる不安定で予測困難なこれからの社会を生きていく上での確かな力となることを願い、卒業生へはなむけの言葉が贈られました。

式の最後には、吹奏楽部の演奏に包まれながら卒業生が退場しました。その凛とした後ろ姿には、それぞれの成長の軌跡がにじみ、見送る保護者の皆様や教職員の胸に深い感動を残しました。担任の中には、思わず目を潤ませる姿も見られ、三年間の重みを感じさせるひとときとなりました。



【特別講演会開催】



3月10日、本校講堂兼体育館において高校1・2年生を対象とした特別講演会「1936年からのメッセージ — 卒業アルバムがつなぐ絆」を開催しました。

本講演会は、アメリカ在住の日系人パティ・ヒラハラ様のご親族の遺品から、1936年（昭和11年）の本校卒業アルバムが発見されたことを契機に実現したものです。このアルバムは当時の卒業生・江藤忠次氏のものであり、約90年の時を経て本校へと戻ってきました。

当日は、ヒラハラ様ならびにノリオ・ウエマツ様をお迎えし、ご講演をいただきました。また、お二方と本校をつないでくださった朝日

新聞記者・五十嵐大介様より、アルバム発見の経緯についてご説明がありました。講演に先立ち、ヒラハラ様から本校へ卒業アルバムが寄贈されました。

講演では、ウエマツ様よりアメリカに渡ったご家族の歴史について、またヒラハラ様より日系人収容所での生活や日系四世としてのご自身の歩みについて、当時の写真を交えながらお話しいただきました。生徒たちは歴史の一端を自分事として受け止め、真剣に耳を傾けていました。

質疑応答では、「差別をなくすために何ができるか」といった問いが生徒から寄せられ、互いを尊重し理解しようとする姿勢の大切さについて示唆に富むお話をいただきました。

講演の最後には、全員で校歌を斉唱しました。本校校歌は、当時の校長であり林校長の祖父でもある林義善先生が作詞されたものであり、江藤忠次氏が在学していた時代と現在とを結びつける、象徴的なひとときとなりました。

寄贈いただいた卒業アルバムは、今後大切に保存し、本校の歴史を伝える貴重な資料として活用してまいります。

【進学講演会】

3月16日、本校において中学3年生および高校1・2年生を対象とした進学講演会を実施しました。

本講演会では、一般入試・指定校推薦・総合型選抜といった受験方式ごとに、また文系・理系それぞれの立場から、卒業生の長谷川君の進行のもと、栄冠を勝ち取った7人の先輩が自身の受験体験について講演を行いました。志望校や受験方式の決定に至る過程、日々の学習への取り組み方、本格的に受験勉強を開始した時期など、具体的かつ実践的な内容が語られました。

講演の中では、「夜9時に就寝し、朝3時から学習していた」「一日10時間以上勉強していた」といった、在校生にとって驚きを伴うような生活の実例も紹介され、生徒たちは真剣な表情で耳を傾けていました。

質疑応答では、「スマートフォンとの付き合い方」や「受験期のメンタルの保ち方」など、現実的で切実な質問が途切れることなく寄せられました。講演後の個別相談には長い列ができ、予定時間内に収まりきれないほどの盛況となり、生徒一人ひとりの関心の高さがうかがえました。

本講演会を通して、生徒たちは受験をより身近なものとして捉え、今後の学習や進路選択に向けた意識を高める貴重な機会となりました。

【修了茶会】



1月より実施してまいりました修了茶会は、3月14日の2Cクラスをもって、無事に全日程を終了いたしました。

ご多用の中ご参会いただきました保護者の皆様に、改めて御礼申し上げます。生徒たちは、ご家族を前に緊張感をもって一服のお茶を点て、その一つ一つの所作にはこれまでの稽古の積み重ねが表れていました。その清々しくも成長した姿は、保護者の皆様にとっても感慨深いものとなったことと存じます。

また、茶会の終わりには、日頃なかなか言葉にすることのできない感謝の気持ちを伝える場面もあり、心温まるひとときとなりました。

この経験を通して、生徒たちはいよいよ3年生へと進級します。本茶会での学びと気づきを胸に、決意を新たにし、それぞれの進路実現に向けて歩みを進めてくれることを期待しております。

【英語スピーチコンテスト】



予選となる原稿審査を通過した15名が本戦に進出し、決勝ではその中から選ばれた出場者たちが、それぞれ工夫を凝らしたスピーチを堂々と発表しました。全体として非常にハイレベルな大会となり、内容の充実はもちろんのこと、聞き手に伝わる発表態度の大切さも改めて感じられるコンテストとなりました。

その中で見事優勝を果たしたのは、「Moving Forward」というタイトルでスピーチをした勝又柚輝君でした。勝又君は高校受験での経験をもとに、何事にも前向きに取り組む姿勢へと自分を変えていったことを語り、自身の成長を力強く伝えました。2位には佐藤遼君、3位には堺新太君が入賞しました。

今年のスピーチでは、「早起きのメリット」「時間の有効利用」「小さな行動の積み重ね」といった、日々の生活

や自分自身の成長に関わるテーマが目立ちました。社会問題を扱うというよりも、自分の経験や考えをもとに、身近な課題や目標について語るスピーチが多かったのが印象的でした。

英語スピーチコンテストでは、英語力だけでなく、内容の構成や表現力、そして聴衆に思いを届ける発表態度も重要です。今年の大会でも、出場者一人ひとりの努力と個性がよく表れていました。来年はさらに多くの生徒が挑戦し、より充実した大会になることを期待しています。

【新年度当初の予定】

4月5日(日) 令和8年度 入学式

6日(月) 始業式・対面式

7日(火) スタディサポート